

当科の2023年度教育ラダー改訂と評価について

I.目的

2018年より当科の教育ラダーが現在の評価方法となり、業務拡大やマニュアル改訂に伴うラダーの追加・改定を行っている。2023年度から「エコー操作」「カテーテル挿入介助」のラダーを追加した。その結果と課題を検討する。

II.方法

臨床工学科血液浄化系のラダーレベルは5段階としており、レベル毎に大項目、中項目、小項目を設けている。小項目から段階的に合否判定を行い、レベルアップの判定時には所属長の面談・承認を経てステップアップする形をとっている。小項目に設けたチェックシートを活用し、各項目の合格者が指導・評価を行う。各チェックシートに対し適切な回数を経験させ、内容を理解した段階で対象ラダーの合格者かつ透析技術認定士の資格を有する者2名からそれぞれの合格を必須としている。

III.結果

エコー操作者が8名から13名、カテーテル挿入介助者が7名から11名に増え、緊急時でも早急な対応が可能となった。運用に関しては進捗状況の確認やチェック記載不備等の問題点について月に1度担当者と役職者にてラダー会議を行い検討している。また実際にラダーを運用した感想や修正点に関して、半年に1度個々にラダー面談を実施しており運用の参考にしている。

IV.結論

ラダーによってスタッフの独り立ちを進められた。エコー操作の穿刺に関しては症例数が多いため全体的にラダーを進めることができた。しかし血流量やRI測定は入れる状況が限られており、進捗が遅れていることが課題となっている。またカテーテル挿入介助も症例数が限られており、各人の進捗に差が出ていることが現状である。